

児童生徒の自己指導能力の 育成に関する研究

— 教育相談の機能を生かした教育活動を通して —

平成 27 年 3 月

北海道立教育研究所

はじめに

児童生徒が日常の生活において接する機会が多い大人は、教員と保護者です。教員や保護者は、児童生徒の抱える悩みを見過ごすことなく、できるだけ早期に捉え、わずかな変化に注意を払い、悩みが深刻化しないよう、日頃から一人一人にアドバイスや声掛けを行うことが大切です。

また、現代社会の変容に伴い、児童生徒が直面する問題はますます複雑多様化しており、教員と保護者が協力して問題解決に当たる必要があります。同時に、児童生徒の個々の問題を解決していくためには、児童生徒自らが主体的に解決する能力を高めることが求められます。

学校においては、児童生徒の自己指導能力の育成を生徒指導の理念として、児童生徒の人格形成のための教育活動が営まれています。全ての児童生徒に備わる自己指導能力を、自発的・自主的に育成するためには、学校での全体指導においても、個に対応するための教育相談的な関わりが必要となります。

これらのことを踏まえ、当研究所においては、教育相談の機能を生かした、日々の授業等における児童生徒の自己指導能力の育成を図る指導の充実が重要であるとの視点に立ち、本研究を進めてまいりました。

本研究の成果が、各学校における実践や校内研修で積極的に活用され、児童生徒の自己指導能力の育成に関する指導の一助となることを期待しています。

平成 27 年 3 月

北海道立教育研究所長 山 田 寿 雄

目次

はじめに

I 研究の経緯

- | | |
|------------|---|
| 1 研究の背景と目的 | 2 |
| 2 研究の概要 | 2 |

II 教育相談の機能を生かした指導の実際

- | | |
|--------------------------------|----|
| 1 教育相談の機能を生かした自己指導能力の育成を図る教育活動 | 4 |
| 2 指導計画例 小学校 | 7 |
| 3 指導計画例 中学校 | 15 |
| 4 指導計画例 高等学校 | 23 |

III 集団活動等における指導の在り方

- | | |
|-----------------------------|----|
| 1 教育相談の考え方や手法を取り入れた集団活動等の工夫 | 29 |
| 2 家庭、地域との連携 | 33 |

IV まとめ

- | | |
|---------|----|
| 1 研究の成果 | 35 |
| 2 今後の課題 | 36 |

参考文献等

< 資料 >

活動の雰囲気をつくる「構成的グループエンカウンター」

気持ちを受け止める「傾聴」と「受容」

相手に思いを届ける「アサーション」